



►►Vol.46表紙イラスト

立春を越し、こよみは春をします。
一月の雪だるまがわずかに溶け残り、子ども
のミトンぐらいの氷となって、それでもまだ冬
天をつかんでいます。
風と雪とにたえる日々がつづきますが、みなさ
まはいかがお過ごしでしょうか。

雪は天から送られた手紙である
中谷宇吉郎

雪の科学者にして氷の詩人、中谷宇吉郎は冬の華を温かい喩えで伝えています。
樹枝状六花、羊齒状十二花…………
先日、大寒をむかえた伊那谷ですが、家の庭に落の薹（ふきのとう）を発見。
苞葉いっぽい、歌うように蕾が満ちます。
雪の結晶が奏で、落の花たちが笑顔で歌う。
そんな宵のうたげが、この世界のどこかに、
ゆるされて在るのかもしれません。
目をつぶるフクロウのように。
人にも瞳を閉じてこそ見える光があります。
たとえば……春、あなたを宛先にして。
表紙画と文 / 田中宏

表紙画と文 / 田中宏